

**朝日放送の映像アーカイブ新運用システムがスタート！  
「てなもんや三度笠」から「高校野球」まで順次ファイル化！  
コンテンツの全社共有で、働き方も変わる可能性**

朝日放送株式会社(本社:大阪市福島区、代表取締役社長:脇阪聰史 以下 ABC)は、本日 **10月2日**から、社員とスタッフ向けの新しいライブラリー統合設備の運用を開始します。名称は、「**ACSEL**」(**A**dvanced **C**ontents **S**haring and **E**xchanging **L**ibrary)です。

「**ACSEL**」(アクセル)は、これまでに撮影してきた報道・スポーツ・制作等の映像を、一元管理、全社共有を目的とし、今後の全社ファイルベース化における中心システムとして、このたび、ABCと日本電気株式会社がともに構築したものです。

ABCは 1956 年にテレビ放送を開始して以来、60 年以上にわたりアーカイブしてきた膨大な映像コンテンツを保有しています。大ヒットコメディ「てなもんや三度笠」や、夏の高校野球、大阪万博や阪神淡路大震災など、テレビ史に残る数々の映像は、これまでフィルムやVTRという形でABC社内で大切に保管してきました。

**今回、こうした膨大な映像遺産を、ファイル化しデータでアーカイブすることで、社員やスタッフが24時間いつでも各自のデスクトップPCで映像を検索&確認したり、必要な素材を直接編集機に自動転送したりすることが可能になりました。**これまで煩雑だったアーカイブ素材の検索・貸出に関して、「場所と時間」の制限をなくすことで、社内でのコンテンツ流通が円滑に進み、より働きやすく、よりよい番組作りができるようになります。現在、順次ファイル化を進めていますが、全ライブラリー映像のファイル化完成は2021年を目指しています。

■「**ACSEL(アクセル)**」の特長

- ・全社のアーカイブコンテンツを一元管理し、24時間365日確認が可能。  
(デスクトップPCでの映像確認、編集機等へコンテンツ自動転送など)
- ・LTO7を保存媒体とすることで大容量コンテンツの保存が可能。
- ・字幕ファイルおよび原稿をインデックス化するなど、充実した検索機能。
- ・社内の承認ルートの自動判定、電子承認により、利用が承認されるまでの時間を大幅に削減。

